

「蔵王鉱山歴史資料館」が完成。 11月23日仮オープン!



蔵王通信
第14号
発行
NPO法人 蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会
山形県上山市蔵王字蔵王山 2843-1
発行責任者 川口 兼次
TEL.023-679-2211 FAX.679-2606
編集責任者 高橋 正之
山形県上山市金谷 530 TEL.023-679-2435
印刷所
有限会社 東洋企画印刷
山形県上山市四谷 2-1-46
TEL.023-673-1648 FAX.673-1646

当法人が蔵王猿倉・中川第2小学校跡地に建設を進めてきた「蔵王鉱山歴史資料館」(体育館棟)が9月末に完成しました。会員の皆様並びに支援者の皆様には、多くの寄付金を寄せていただき、心より厚く御礼申し上げます。この程、寄付していただいた方々は、ご芳名を資料館に掲示させていただきます。



元製錬場方向の北側



猿倉方向の南側
(出入口には、教室棟を接続する予定。背後の立木は、元体育館前の楠ノ木)

本「資料館」は、蔵王鉱山元従業員及びその二世が中心となり、平成28年4月28日、特定非営利活動(NPO)法人「蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会」を設立し、鉱山の歴史と文化を後世に伝承するため、その殿堂として建設したものです。建物は、旧中川第2小学校を原型としており、今後「教室棟」を増築する方針です。

この間、令和元年春には、心となり、平成28年4月28日、特定非営利活動(NPO)法人「蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会」を設立し、鉱山の歴史と文化を後世に伝承するため、その殿堂として建設したものです。建物は、旧中川第2小学校を原型としており、今後「教室棟」を増築する方針です。

元製錬場方向の北側
猿倉方向の南側
(出入口には、教室棟を接続する予定。背後の立木は、元体育館前の楠ノ木)

猿倉方向の南側
(出入口には、教室棟を接続する予定。背後の立木は、元体育館前の楠ノ木)

クラウドファンディングにより、令和元年5月15日に地鎮祭、同年7月16日には上棟式を執り行い、この程完成をみました。建設費の総額は、(有)鈴建へ1千90万4千円、小松設計へ75万6千円合計1千2百66万

感謝

感謝をこめてご報告
令和元年8月1日から令和元年9月30日までの会費、寄付金、クラウドファンディング等についてご報告いたします。

- ### 会費
- 寒河江市 齊藤 広様
山形市 鈴木 敏和様
鈴木 ヒサ子様 佐藤 弘子様
山形市 土屋 健一様
土屋 智広様 川崎 充子様
土田 貞男様 篠原 政志様
桑原久美様
- ### ご寄付者氏名
- 木村 幹雄様 丹野 啓様
ウスマヤ様 小林 七郎様
阿部 敏子様 石原 邦子様
野地 洋様 金子キミ子様
岡野 稔様 西野目 哲様
山川 庄助様 齊藤製本 様
須田 勝男様 柴田美喜子様
笹原 美保様 榎本 眞理様
山口 梅雄様 東海林茂子様
金子 重男様 山川 和夫様
星商事株式会社 代表取締役 川口 豊様
星商事株式会社 代表取締役 川口 周 一様
岩川商事株式会社 ユー 山荘
代表取締役 岩川耕治様
- ### クラウドファンディング
- 須江 和寿様 鈴木 敏彦様
土屋 健一様 長岡 迪生様
長岡 通子様 川口 京子様
高橋 正之様 熊谷 忍様
川口 周治様 川口 尚也様
阿相 智貴様 齊藤清一(公妙)様
ZAO猿倉レーシング様
大宮 善孝様 佐藤 竹志様
齊藤 暢之様 慈眼寺草原様
小松 正和様 志人会一同様
塩野 昌俊様 齊藤 英治様
長沢 徹郎様 黒田 修様
内海 浩之様 川口みどり様
大場 秀雄様 野口 久義様
佐藤 周平様 堀 和彦様
佐藤衣利子様 伊藤 利彦様
高橋 輝幸様 小笠原けい子様

「観光地にホテルを建ててお客様をバスで送迎する。そういう時代は終わった。これからは、お客様の住んでおられる都会にホテルを建てる時代」といって全国の都会のド真ん中ワシントンホテルを建設、

「観光地にホテルを建ててお客様をバスで送迎する。そういう時代は終わった。これからは、お客様の住んでおられる都会にホテルを建てる時代」といって全国の都会のド真ん中ワシントンホテルを建設、

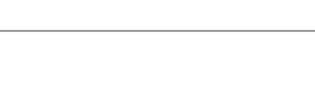
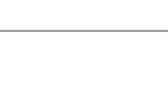
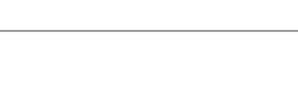
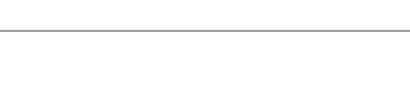
「観光地にホテルを建ててお客様をバスで送迎する。そういう時代は終わった。これからは、お客様の住んでおられる都会にホテルを建てる時代」といって全国の都会のド真ん中ワシントンホテルを建設、

「観光地にホテルを建ててお客様をバスで送迎する。そういう時代は終わった。これからは、お客様の住んでおられる都会にホテルを建てる時代」といって全国の都会のド真ん中ワシントンホテルを建設、

「観光地にホテルを建ててお客様をバスで送迎する。そういう時代は終わった。これからは、お客様の住んでおられる都会にホテルを建てる時代」といって全国の都会のド真ん中ワシントンホテルを建設、

蔵王鉱山は誰のもの

故に日東さんからのお話は乗れない、という藤田 観光・・・



院内鉱山、異人館前

院内鉱山、異人館前

院内鉱山、異人館前

院内鉱山、異人館前

院内鉱山のジオラマ

会員通信

昭和 36 年 6 月の早朝、体育館と若竹寮との間に「ひょうたん池を作り岩魚を育てよう」と思い、設計図を見ていたところへ塩田所長が突然現れ「先生の考えに大賛成だ。僕も入れて欲しい」と言い、次の日から 5 人の作業員が来て、2 日間で完成していただきました。

約 2 ヶ月間放置し、8 月末頃から、吉田さんと僕で仙人沢と芳刈川から岩魚を釣り、約 100 匹放した。

10 月に実施した県へき地研究大会では、校舎東側に移植した「りんどう」と「ひょうたん池」が地域を生かした教材としてすばらしい称賛を得た。

昭和 37 年 4 月、蔵王 2 中へ転動した。転動して間もなく、若竹寮の子供さんから「岩魚を釣って食べる先生がいるから注意して欲しい」とのハガキが来ました。住所、氏名はなかった(3 回)。誰かな？

中川第二小学校教諭 海老名 六郎

私は、蔵王鉱山元山で鉱夫として従事していた父・齋藤 透、母・齋藤 文の次男・暢之です。

昭和 35 年 4 月から 38 年 3 月までの 3 年間、中川第二小学校での勉学、若竹寮での寮生活を経験しました。

社会人になってからは、銀行に入行。大企業担当・海外支店及び本部勤務等経験の後、長い銀行員生活に別れを告げ、今も一般企業に再就職し、日々多忙な生活を送っています。

当時の掛け替えのない経験は、脳裏に深く刻まれ決して頭から離れることはありませんでした。毎年恒例だった元山での仮装大会、盆踊り大会は楽しい思い出として深く心に残っています。

蔵王鉱山歴史資料館建設は、本当に嬉しく思っています。同時にご尽力いただいた皆様には心より感謝申し上げます。私も微力ながら可能な限りご協力させていただくつもりであります。

神奈川県座間市相武台 齋藤 暢之

ペンで結ぶ、近況だより

◇土屋健一から

佐藤京一君より元山の同級であった弟の渋谷博美に「たより」がありました。兄・土屋健一が代わってご返事を書かせてもらいます。私は、蔵王鉱山元山におりました土屋宇三郎の長男・健一です。

蔵王鉱山が閉山し 56 年になりましたが、元山の皆さんはその後いかがお過ごしでしょうか。元気でやっていますか。あの時若竹寮で暮らした皆さんとお会いしたいです。

我が同級生(中川中)は、「風の子会」という会で毎年お会いしています。土屋家は、鉱山閉山後、葉山に自宅を構えて現在に至っています。父は、平成 15 年 84 歳で亡くなり、母は昭和 47 年 53 歳で亡くなりました。もう少し長生きしてもらいたかったです。

我が家は、4 人兄妹です。自分は、高校卒業後大阪に就職して 3 年間働きました。山形に戻り農機具会社に勤務して退職まで働き、2 年前 74 歳でリタイヤしました。現在は、息子夫婦と孫(男)の 4 人で元気に暮らしています。

次男・宇三美は、昭和 39 年に 17 歳で亡くなりました。三男・博美は、高校卒業後京一君と同業の繊維業界に勤務し、現在は市内荒町に妻と二人で暮らしています。子どもは男 3 人で、それぞれ独立して、三重県、上山、仙台に住んでおり、元気にやっています。

妹・延子は、山形に就職し現在は市内石崎に住んでいます。子どもは 2 人、男 1 人、女 1 人で、長女は酒田に住んでいます。兄妹 3 人も上山に住み、車で 5 分くらいの所におり、仲良くやっています。

正月二日は、自宅で土屋家の新年会、お盆は 8 月 14 日猿倉新ハウスで、年 2 回顔合わせをしています。甥、姪、その子どもを含めると 20 人くらいになります。父が見守ってくれていると思います。元山の子供たちは、小学校



元山社宅で近所の方々



晩年の父・宇三郎

◇土屋健一から

元山では、渡辺長太郎さんご一家と家族同様の付き合いをさせていただきました。渡辺さんの長女のきみ子さんは、いかがお過ごしですか？近況をお知らせください。

資料館展示物の先行紹介

「歴史資料館」の建設を目前にして、会員や賛助会員から鉱山の暮らしぶりを写した「写真集」や事業活動の一部を記録した史料の寄贈を受けております。

「坑内火災と密閉の経過」

昭和 37 年 12 月 25 日早朝に認知された坑内火災は、翌 26 日以降も懸命の消防水作業が行われたものの依然好転せず、状況は次のように推移した。

本稿は、令和元年 5 月、鉱山職員のご遺族より提供を受けた「元山坑内火災状況報告書」を転写したものです。今回経過の報告を完了とさせていただきます。この史料の原本は、近日中に開館を予定している「蔵王鉱山歴史資料館」に展示することとしておりますので、ご来館の上でご覧ください。

※ 意図に配慮し、非開示としております。

坑内火災の出火、密閉の経過 (その3 最終回)

<12月29日>

- 04:00 ~ 濃SO2ガスが元山坑外に充満し、全体的に危険な状態となる。このため、幹部が協議した結果、元山地区居住の家族を退避させることを決定し、関係筋並びに元山地区全員に連絡指示をする。
- 09:30 ~ 元山地区家族が製錬地区に避難を開始する。
- 10:30 ~ 上山警察署長以下 4 人が元山に到着。
- 10:30 ~ 前日決定した実施事項の外、36 米坑大広間の密閉 3 か所計 6 か所は、同時に行うことを各救護隊に指示。直ちに作業に取りかかる。救護隊基地を方 1 コンプレッサ一室(山神坑坑口)に移す。
- 13:30 ~ 松尾班、24 米大広間の密閉箇所を探索する。大広間 NO3 の密閉箇所は、濃SO2ガスのため、密閉は不可能であると認定する。
- 14:20 ~ 松尾班、24 米大広間 NO1、2 の密閉を完了する。
- 14:40 ~ 相内班、山神坑 NO1 の密閉強化を完了する。
- 14:45 ~ 相内班、山神坑 NO2 の密閉強化を完了する。直ちに救急処置を行い、事なきを得る。原因は、加定(?) の不良(35 年製)によるものである。
- 14:50 ~ 吉野班、山神坑 NO3 の再密閉を完了する。
- 18:10 ~ 松尾班、36 米坑坑口及び口頭で指示事項あり。(書類による監督官より書類及び口頭で指示事項あり。書類によるものは、別添の監督官の通り。)

<口頭指示事項>

- ① 火薬類保管責任者の選任
- ② 火薬類保管場所に昼夜の巡回者を置く
- ③ 警察の了解を得て、製錬場において外来登山者を制限する

19:00 ~ 所長、監督課長、監督官 2 人、松尾・吉野両救護隊が全員下山する。

21:00 ~ 30 日 2 時まで、36 米坑、坑口密閉箇所の状況調査を実施する。

<12月30日>

09:00 ~ 本日の実施事項を次の通りとする。

- ① 火薬類保管責任者の選任
- ② 火薬類保管場所に昼夜の巡回者を置く
- ③ 警察の了解を得て、製錬場において外来登山者を制限する

30 日 9 時 ~ 1 月 3 日までの作業は、各密閉箇所の巡回、火薬類保管箇所の巡回とし、各番割を行う。

12:00 ~ 元山居住家族、製錬より全員帰山する。火薬類保管箇所の立入禁止柵が完了する。

15:30 ~ 蔵王班、扇風機排気口の密閉を完了する。

15:40 ~ 相内班、旧 24 米坑、坑口の密閉を完了する。

16:00 ~ 予定した密閉作業は一応終了したので、31 日より 1 月 3 日までの勤務員以外は、年末年始の休日を実施することとした。

17:00 ~ 相内、大場救護隊(一部の係員は残)が下山。各密閉箇所及び火薬類保管箇所の巡回を始める。

<対策会議の開催>

昭和 38 年 1 月 3 日、鉱山事務所採掘課において、蔵王と松尾の職員による打合せを開催し、① 4 日に山神坑の取り明け、② 5 日より山神坑より製錬向けの鉱石を出坑開始する。この方針を立て、採掘箇所や取り明け方法を決定した。

<第二次消火作業の実施>

昭和 38 年 1 月 13 日 ~ 19 日の 1 週間(1 週間)にわたり第二次消火作業が行われた。昭和 38 年 1 月 13 日の状況を探検することにおかれ、18 日、本部において作業は、各坑の状況を探検することに重点がおかれたが、18 日、本部において打ち合わせの結果、次の状況であった。

- ① 12 米坑、24 米坑の火災範囲は、概略把握できた。崩落した鉱石もかなりあるので、表面は燃えていなくても内部は燃えているものと思われる。
- ② 34 米坑は、燃えているとは思われない。
- ③ 火薬取扱所内の火薬類搬出は現在のところ、いかんともなれない。
- ④ 今後の消火作業は、大規模救護隊を編成しても効果的ではないので、編成替えをした方がよい。
- ⑤ 12 米坑に崩落した鉱石は、少なくとも 2,000t くらいと思われるが、これに再密閉して直接消火を行っても現水圧から考えて無理と思われる。したがって、再密閉をして自然注水を行い、火の眠っている状態を良くしてから取り明けて消火した方がいいのではなからうか。表面は注水して鎮火させることはできても、内部までの消火は(?)をかきだしながら注水しなければならぬので、相当日数を必要とするだろう。
- ⑥ 1 本の水管 0.4 m³/min のもの 2 本は必要である。

以上の検討結果に基づき、西 1 号坑、南二番坑交差点より陥没箇所への無放水が開始され、20 日にも、12 米坑、24 米坑、山神坑の密閉箇所の補強以上を完了した。20 日にも、以上のとおり第二次消火作業を行った。陥没穴は、15:30 まで続けられた。以上のとおり第二次消火作業を行ったが、好転がその後、蔵王救護隊により密閉外の監視等を強化し、25、28 の両日には、陥没箇所及び配管小屋周辺の探検を行い、温度、ガスの測定を行ったが、好転が認められず、自然放水の方向を代えるにとどまった。

次号は、鉱山採掘時、採掘部探検課に所属し、鉱石の探査と鉱量管理の業務を担当していた熊谷 忍さん(新潟市西区居住)が事務局に提報していただいた、閉山時の採掘採掘の様相について紹介する予定です。

編集後記

資料館の一部(体育館棟)が完成した。「院内銀山・異人館」を見て、我が資料館にも建物を入れたジオラマがあった方がよいと感じた。そういえば、元山! 猿倉の住宅地図が未完成。入居者が不明でも建物だけでも完成させ、全体のジオラマを設置したいものである。

資料館に展示しようとして「中川公民館だより」に寄稿中の「蔵王鉱山の思い出」を編集。地元の人からたくさん資料館に足を運んでもらおうと、「中川福祉文化産業まつり」(11/23)のバザーコーナーに先行展示して見た。4 冊展示し完了しました。

「会員通信」の海老名先生先生の「たより」を読んでいて、隣の教室で教えていた先生の声が聞こえてくるようでした。ありがとうございます。齋藤暢之さんは、昭和 35 年 4 月小学校入学のこと。「合理化問題」が勃発した時です。私は、34 年 3 月に小学校を卒業しましたので、丁度入れ替えになったようです。ありがとうございます。

「近況だより」の寄稿、土屋健一 理事長さんありがとうございます。渡辺家は閉山後、東京に移住し皆さん元氣にお暮しのようです。ご返事は、次号に掲載予定です。

(高橋記)